

(3) 調査日程)  
 「へき地医療体制の充実と評価に関する研究」 山形県内病院訪問調査日程及び訪問者  
 <置賜地域>

日	時	訪問病院	山形大学大学院 医療政策学		山形大学医学部 看護学科		山形県健康福祉部											
			清水 教授	船田 助教授	叶谷 教授	鈴木 助教授	山川 補佐	荒木 補佐	佐藤 主査	高梨 主査	大木 主査	伊藤 主事	武田 主事	國井 主事				
5/29 (月)	10:00 ~	公立置賜総合病院	○	○	○													
	13:30 ~	小国町立病院	○	○		○												
	16:30 ~	白鷹町立病院	○	○		○												
5/30 (火)	10:30 ~	国立病院機構米沢病院	○	○		○												
	13:30 ~	公立置賜南陽病院	○	○														
	15:30 ~	公立置賜長井病院	○	○														
5/31 (水)	14:00 ~	公立高島病院	○			○												○
6/1 (木)	10:30 ~	舟山病院	○	○								○						○
	13:00 ~	米沢市立病院	○	○								○						○
	16:00 ~	三友堂病院	○	○								○						○

<最上地域>

日	時	訪問病院	山形大学大学院 医療政策学		山形大学医学部 看護学科		山形県健康福祉部												
			清水 教授	船田 助教授	叶谷 教授	鈴木 助教授	山川 補佐	荒木 補佐	佐藤 主査	高梨 主査	大木 主査	伊藤 主事	武田 主事	國井 主事					
6/5 (月)	15:30 ~	町立真室川病院	○	○															
	17:00 ~	金山町立病院	○	○								○	○						
6/6 (火)	13:00 ~	新庄徳州会病院	○	○															○
	15:00 ~	町立最上病院	○	○															○
6/7 (水)	11:00 ~	県立新庄病院	○	○															○

「へき地医療体制の充実と評価に関する研究」 山形県内病院訪問調査日程及び訪問者

<庄内地域>

日	時	訪問病院	山形大学大学院 医療政策学		山形大学医学部 看護学科		山形県健康福祉部																
			清水 教授	船田 助教授	叶谷 教授	鈴木 助教授	山川 補佐	荒木 補佐	佐藤 主査	高梨 主査	大木 主査	伊藤 主事	武田 主事	國井 主事									
6/19 (月)	10:30 ~ 15:00 ~	県立日本海病院 順仁堂遊佐病院	○	○																			
6/20 (火)	10:30 ~ 13:30 ~	鶴岡市立荘内病院 本間病院	○	○									○	○						○	○		
6/21 (水)	10:00 ~ 13:00 ~ 16:00 ~	市立酒田病院 酒田市立八幡病院 庄内余目病院	○	○																			
6/26 (月)	11:00 ~ 15:00 ~	産婦人科・小児科三井病院 宮原病院	○	○																	○	○	
6/28 (水)	11:00 ~ 14:00 ~ 17:00 ~	鶴岡協立病院 湯田川温泉リハビリ テーション病院 斉藤胃腸病院	○	○																			
6/29 (木)	11:00 ~	県立鶴岡病院	○	○																			○

「へき地医療体制の充実と評価に関する研究」 山形県内病院訪問調査日程及び訪問者  
 <村山地域>

日	時	訪問病院	山形大学大学院 医療政策学		山形大学医学部 看護学科		山形県健康福祉部												
			清水 教授	船田 助教授	叶谷 教授	鈴木 助教授	山川 補佐	沖津 主査	佐藤 主査	長岡 主査	岩瀬 主査	武田 主事	荒木 補佐	熊谷 主査	高梨 主査	大木 主査	伊藤 主事	國井 主事	
7/20	(木) 15:30 ~	県成人病検査センター	○	○						○									
7/24	(月) 10:00 ~ 14:00 ~	県立中央病院 北村山立病院	○	○				○										○	
7/25	(火) 16:15 ~	朝日町立病院	○	○												○			
7/26	(水) 14:00 ~	みゆき会病院	○	○												○			
7/28	(金) 10:00 ~	篠田総合病院	○	○											○				
7/31	(月) 10:00 ~ 14:00 ~	東北中央病院 西川町立病院	○	○					○										○
8/1	(火) 14:30 ~ 16:00 ~	寒河江市立病院 県立河北病院	○	○					○										○
8/2	(水) 15:00 ~	吉岡病院	○	○					○										○
8/3	(木) 10:00 ~ 14:00 ~	山形市立病院済生館 天童温泉篠田病院	○	○												○			○
8/4	(金) 10:00 ~ 16:00 ~	県立療育訓練センター 山形済生病院	○	○												○			○
8/9	(水) 10:00 ~	天童市立天童病院	○	○						○									
8/21	(月) 9:30 ~ 14:00 ~	国立病院機構山形病院 至誠堂総合病院	○	○					○										○
8/23	(水) 12:30 ~ 16:30 ~	山形大学医学部附属病院 矢吹病院 山形徳州会病院	○	○														○	
8/24	(木) 10:00 ~	井出眼科医院	○	○														○	
8/25	(金) 15:00 ~	小白川至誠堂病院	○	○															○
8/29	(火) 15:00 ~	横山病院	○	○														○	

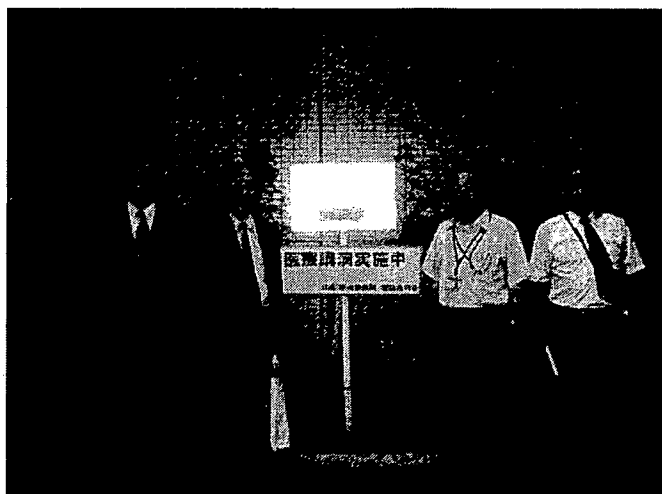
【山形徳洲会病院】 山形市清住町2丁目3-51

■訪問日：平成18年8月23日（水）17：10～19：20

■対面者：門間文行院長

■訪問者：（山形大学）清水博教授、船田孝夫助教授、〔大学院生〕古川雄彦附属病院薬品管理室長  
（山形県健康福祉部）長岡篤志企画主査

項 目		項 目 (H18.10.1 現在)		併設施設がある場合、頭に○印				
病床数(現在)	292床	常勤医師	8人	訪問看護ステーション				
一日平均外来患者数	150人	非常勤医師(常勤換算で)	4.6人	訪問リハビリステーション				
病床利用率(※平成17年度)	%	標準医師数%	%	地域包括支援センター				
平均在院日数(※)	17日	産科医(再掲:常勤換算で)	人	介護療養型医療施設				
紹介率(※)	%	小児科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人保健施設				
逆紹介率(※)	%	麻酔科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人福祉施設				
救急患者数(平日)(※)	2273人/年	歯科医師	1.1人	認知症高齢者グループホーム				
救急患者数(休日)(※)		薬剤師	5人	特定施設入居者生活施設				
救急患者数(救急車搬送)(※)	156人/年	看護師	89人	軽費老人ホーム(ケアハウス)				
手術件数(全麻)(※)	件/年	助産師(兼任を含む)	0人	有料老人ホーム				
手術件数(局麻)(※)	件/年	診療放射線技師	5.0人	小規模多機能型施設				
分娩数(※)(うち帝王切開)	件/年( )	臨床検査技師	8.0人	高齢者向け優良賃貸住宅				
収支(平成17年度決算)	黒字・赤字	理学療法士:PT	5.0人	看護学校				
△3.16%改定の影響	ありなし	作業療法士:OT	7.0人	リハビリテーション病院				
△3.16%の影響ありの場合	%	言語聴覚士:ST	2.0人	診療所				
クリティカルパスの使用	ありなし	臨床工学技士	6.0人	○	保育所			
医療ソーシャルワーカー:MSW	1.0人	診療情報管理士	1.0人	その他( )				
事務職	33.7人	栄養士(5.0人)、このうち再掲 管理栄養士(3.0人)						
地域連携室(再掲)		看護師		人				
医師(兼任を含む)		人	医療ソーシャルワーカー(兼任を含む):MSW	人				
事務職(兼任を含む)		人	その他( )	人				
主な設備等	電子カルテ	導入済・検討中・予定なし	オーダリング	導入済・検討中・予定なし				
CT	1台	内訳: マルチスライス(1台)、ヘリカルCT( 台)、その他( 台)						
MRI	1台	内訳: 1.5T以上(1台)、1.0T( 台)、0.5T( 台)、0.4以下( 台)						
リニアック	台	透析機器	30台	透析実患者数	81人			
重要度別必要医師数及び医療スタッフ数 A,B,C欄に内訳を記載 A:直ちに補充が必要 B:できるだけ早期に必要 C:将来的に必要								
	必要人数計	A	B	C	必要人数計	A	B	C
内科医(一般)	1人	人	1人	人	耳鼻咽喉科医	人	人	人
循環器呼吸器内科医	人	人	人	人	眼科医	1人	人	1人
消化器内科医	1人	人	1人	人	産婦人科医	人	人	人
小児科医	人	人	人	人	麻酔科医	1人	人	1人
外科医(一般)	人	人	人	人	放射線科医	人	人	人
循環器呼吸器外科医	人	人	人	人	その他( 科医)	人	人	人
消化器外科医	1人	人	1人	人	看護師	20人	人	15人
脳神経外科医	人	人	人	人	コメディカル			
整形外科医	1人	人	1人	人	( )	人	人	人



<課題>

- 1 医師不足と看護師不足の解消
- 2 前方・後方医療連携の充実

<Flag>

- 1 特定疾患（神経難病等）
- 2 地域医療
- 3 透析医療
- 4 スポーツ医学・脊椎外科

<9つの主な事業>

- ① がん対策  
→検診及びドックを行っている。消化器、肺の手術と化学療法を行っている。
- ② 脳卒中对策  
→回復期リハビリが可能
- ③ 急性心筋梗塞  
→山形県立中央病院を中心に紹介
- ④ 糖尿病対策  
→外来と透析を行っている。
- ⑤ 小児救急を含む小児医療対策  
→行っていない。
- ⑥ 周産期医療  
→行っていない。
- ⑦ 救急医療  
→心臓疾患以外、当直体制とオンコールで対応
- ⑧ 災害医療対策  
→災害医療チームを組織
- ⑨ へき地医療対策  
→山形徳洲会病院としては行っていない。グループとして行っている。

## &lt;現状と課題&gt;

- ・ 徳洲会としては理事長の出身地の離島医療から始まり、地域医療に貢献してきた。現在では7つの病院が離島にできた。
- ・ 医師をいかに確保するかが問題。都会でないとなかなか集まらない。山形でも同じ状況にある。10年くらいかかって一つ病院を離島に作って、それが広がった。これまでへき地・離島医療を実践してきた。ここもようやく定員を満たしている状態である。新庄の徳洲会病院はまだ不足している。離島は1~2人の医師でやっているの、まだまだ大変だ。現場の医師の意見等が「直言」という形で広報紙に掲載され、皆で共有している。
- ・ 「この辺は儲かるから病院をつくったらどうか」という考えもあるが、徳洲会はそうではない。他がつくらないところにつくっていかうと。ビジネスでも宗教でもない。
- ・ 困っているのは、医師不足と看護師不足の問題。看護師1人抜けただけでも大変な状況になる。山形大で150人募集しているということも拍車をかけている。東京でさえ、大学病院が募集していて太刀打ちできない。
- ・ 医師会が我々を認めようとしらない。医師会で10人のうち1人でも反対の人がいると認めてもらえない。茅ヶ崎では戦争状態もあったが、20年たってやっと医師会に入れてもらった。
- ・ 山形でも、申請したベッド数に対して医師会が新たに病院をつくるからという理由で減らされた。それなのにまだ病院を作る様子もない。東北の医師会はずいぶん強いようだ。そういうところもよそから医師が来にくい環境をつくっている一因である。私は秋田出身なので東北の医療をよくしたいと思っている。医師が患者を見下すという傾向が東北には強い。これも問題だと思う。
- ・ 新庄徳洲会病院に8年間在籍した。新庄市は開業医が割と多い。それまでは入院する場合は山形県立新庄病院に頼るしかなかった。我々は病院を作って地域に貢献したと思っている。また、高度先進医療ではないが、経済的に苦しい方にも肺炎などの疾患を診てあげたいという考えでやっていた。小児科も当初医師がいたが、医師の高齢化により今はできていない。
- ・ 村山地区・山形市近辺の医療について—ここには開業医からの紹介がないので、連携面の問題は分からない。高齢者で在宅では看られない患者が入院している。療養はいつも満床状態。行き場が全くない。開院からまったく動いていない患者が1割いる。脳外科は20万人に一施設で十分と言われているが、県立中央病院をはじめとして、かなり医師はいる。救急は問題ないが、はざまの患者をどうするか。山形でも在宅では難しいケースは少なくない。

## &lt;9つの主な事業&gt;

## ○ がん

- ・ 検診及びドックをやっている。年間2,000人くらい。胃カメラ・大腸ファイバー・甲状腺はオプションでやる。
- ・ 消化器はここでやっている。(胃・大腸・食道・肝臓) 専門医は1人いる。月2~3例
- ・ 食道から大腸までについて、内視鏡的がん切除もやっている。(消化器内視鏡診療科医1人)
- ・ 肺・乳房の手術をやっている。
- ・ 婦人科はやっていない。患者の希望により病院を紹介する。
- ・ リニアックはない。
- ・ 手術と化学療法を行っている。担当は、外科1人ともう1人、あとは応援でやっている。

## ○ 脳卒中

- ・ 患者は少ない。

- ・ 県立中央病院や山形大に最初から搬送されるようだ。
- ・ 回復期リハが終わってから、紹介されるケースは少ない。回りまわってここに来る患者が多い。
  
- 急性心筋梗塞
  - ・ 県立中央病院を中心に送っている。
  
- 糖尿病
  - ・ 外来をやっている。専門医（若手）が1人いる。
  
- 小児医療
  - ・ やっていない。
  
- 周産期医療
  - ・ 分娩はできない。
  - ・ 婦人科検診のみ（非常勤医師）対応している。
  
- 救急医療
  - ・ 当直体制とオンコールで対応している。
  - ・ 心臓疾患以外は対応できる。
  - ・ 救急患者数は、夜間1件、土日はほとんど来ない。月に10例あるかどうか。
  - ・ 救急告示病院になっている。
  
- 災害医療
  - ・ 災害医療チームを組織しており、国内のみならず海外にも派遣する。
  - ・ 徳洲会として力と経験を有している。
  
- .....
  
- 医療連携
  - ・ 近くの整形外科から腰痛などの紹介はたまにあるが、内科の紹介は少ない。
  - ・ 紹介先としては、頸椎・捻挫などでは近くの開業医へ紹介する。
  - ・ 地域医療連携室は設けていないが、MSWを1人配置している。
  
- 電子カルテ
  - ・ なし。導入予定もなし。
  
- 遠隔医療
  - ・ やっていない。
  
- 連携パス
  - ・ やっていない。
  
- 病院の Flag
  - ①透析
    - ・ 70人くらいの患者対象に透析を行っている。機器は40台くらい。合併症の末期的患者が多い。

②特定疾患等

- ・ 50人の難病患者（ALS・パーキンソン等）にあたっている。
- ・ 人工呼吸器20台あり、ほとんどが気管切開。神経内科医が1人いたが、非常勤となる予定である。ほとんどが神経難病である。
- ・ 出身地の内訳は、関東20人、東北30人
- ・ 月に5～6人がショートステイで利用している。
- ・ 認知症の患者はさほど多くない。

③スポーツ医学

- ・ スポーツセンターを今年中に開設する予定である。健康増進と医療を組み合わせで展開していく。山形大出身の整形外科医が担当する。なお、モンテディオ山形のスポーツドクターにもなっている。

④脊椎・脊髄外科（院長担当）

- ・ 脊椎学会認定医は県内では院長のみ。脊椎・脊髄センター的病院として手術を行っている。

○ 老人保健施設・特別養護老人ホームとの連携

- ・ 新庄ではあるが、ここはあまりない。

○ 医療スタッフの状況

- ・ PT（7人）、OT（7人）、ST（2人）については数的にも問題ない。
- ・ 薬剤師5人
- ・ 脳卒中、運動器リハは取得済
- ・ 臨床工学技士は7人いるが、まだ足りない。

○ 訪問看護ステーション・訪問リハビリテーション

- ・ まだやっていない。篠田総合病院はよくやっていると思う。

○ 外注

- ・ 清掃・医事は外注。検査はほとんど自前。給食も自前でやっている。
- ・ 処方院内（徳洲会の方針）

○ 主な医療機器

- ・ CT1台（マルチスライス）
- ・ MRIは1.5Tが1台
- ・ 放射線技師5人。PETも入れる予定だが、現状では難しい。
- ・ CTは1日16～20件。MRIは10件。多いと15件。待たずに検査できる状況にある。

○ 収支

- ・ 7月の収入が2億2千万円
- ・ 人件費47%。経費12.6%。医業利益10.6%。本部費を入れると△2,500万円
- ・ 本部からの繰入はない。大型機器は本部管轄で了承が必要となる。ただし、実績を示せば認めてもらえることが多い。

○ △3.16%の診療報酬改定の影響

- ・ 800～1,000万円のマイナスの見通し。
- ・ マイナス3.16%までの減収にはいっていない。
- ・ 療養病床分でマイナス800万円くらい。トータル1,500万円のマイナス。

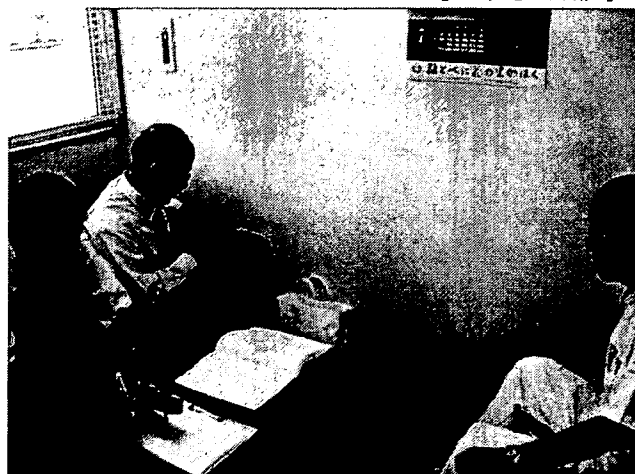


- ・ 対策も考えたが、どうにもならない状態
- 平均在院日数
  - ・ 一般病床は 17 日。療養病床はほとんど患者が動かない。
- 病床利用率
  - ・ 一般病床は 80% くらい。療養病床はほぼ 100%
- 外来患者数
  - ・ 一日平均 150 人 / 日
- 徳洲会としての活動など
  - ・ 月に 1 回、山形・余目・山北（新潟）・新庄・仙台・秋田ドラゴンクリニック（医師 1 人）の院長が一同に会し、様々な情報交換などを行っている。
  - ・ グループの老人保健施設が苦しい状況にある。理由は自己負担が上がったため、施設を出るケースが増えている。稼働率が 90% 台から 70% 台に落ちているようだ。

【みゆき会病院】 上山市弁天二丁目2-11

- 訪問日：平成18年7月26日（14：00～18：10）
- 対面者：太田吉雄病院長、赤城教之医療ソーシャルワーカー
- 訪問者：（山形大学）清水博教授、船田孝夫助教授  
（山形県健康福祉部）熊谷岳郎医務主査、武田祐二主事

項 目		項 目 (H18.10.1 現在)		併設施設がある場合、頭に○印				
病床数(現在)	183床	常勤医師	9人	○	訪問看護ステーション			
一日平均外来患者数	247.3人	非常勤医師(常勤換算で)	5.2人		訪問リハビリステーション			
病床利用率(※平成17年度)	94.1%	標準医師数%	113.8%		地域包括支援センター			
平均在院日数(※)	33.7日	産科医(再掲:常勤換算で)	人		介護療養型医療施設			
紹介率(※)	21.2%	小児科医(再掲:常勤換算で)	人	○	介護老人保健施設			
逆紹介率(※)	12.3%	麻酔科医(再掲:常勤換算で)	人		介護老人福祉施設			
救急患者数(平日)(※)	1,560人/年	歯科医師	1人	○	認知症高齢者グループホーム			
救急患者数(休日)(※)		薬剤師	4人		特定施設入居者生活施設			
救急患者数(救急車搬送)(※)	385人/年	看護師	85人		軽費老人ホーム(ケアハウス)			
手術件数(全麻)(※)	250件/年	助産師(兼任を含む)	0人		有料老人ホーム			
手術件数(局麻)(※)	150件/年	診療放射線技師	3.0人		小規模多機能型施設			
分娩数(※)(うち帝王切開)	件/年( )	臨床検査技師	5.0人	○	高齢者向け優良賃貸住宅			
収支(平成17年度決算)	黒字・赤字	理学療法士:PT	14.0人		看護学校			
△3.16%改定の影響	あり・なし	作業療法士:OT	10.0人		リハビリテーション病院			
△3.16%の影響ありの場合	%	言語聴覚士:ST	2.0人		診療所			
クリティカルパスの使用	あり・なし	臨床工学技士	0人	○	保育所			
医療ソーシャルワーカー:MSW	3.0人	診療情報管理士	人		その他( )			
事務職	13.0人	栄養士(1.0)人、このうち再掲 管理栄養士(1.0)人						
地域連携室(再掲)		看護師			5人			
医師(兼任を含む)	2人	医療ソーシャルワーカー(兼任を含む):MSW			3人			
事務職(兼任を含む)	1人	その他(リハビリテーション科)			1人			
主な設備等	電子カルテ	導入済・検討中・予定なし	オーダリング	導入済・検討中・予定なし				
CT	1台	内訳: マルチスライス( 台)、ヘリカルCT( 1台)、その他( 台)						
MRI	1台	内訳: 1.5T以上( 1台)、1.0T( 台)、0.5T( 台)、0.4以下( 台)						
リニアック	台	透析機器	台	透析実患者数	人			
重要度別必要医師数及び医療スタッフ数 A,B,C欄に内訳を記載 A:直ちに補充が必要 B:できるだけ早期に必要 C:将来的に必要								
	必要人数計	A	B	C	必要人数計	A	B	C
内科医(一般)	人	人	人	人	耳鼻咽喉科医	人	人	人
循環器呼吸器内科医	人	人	人	人	眼科医	人	人	人
消化器内科医	人	人	人	人	産婦人科医	人	人	人
小児科医	人	人	人	人	麻酔科医	人	人	人
外科医(一般)	人	人	人	人	放射線科医	人	人	人
循環器呼吸器外科医	人	人	人	人	その他( 科医)	人	人	人
消化器外科医	人	人	人	人	看護師	人	人	人
脳神経外科医	人	人	人	人	コメディカル			
整形外科医	人	人	人	人	( )	人	人	人



<課題>

- 1 急性期疾患の機能分担の明確化
- 2 包括医療の推進
- 3 運営の効率化

<Flag>

- 1 包括医療（急性期医療から在宅まで）（老人保健施設、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション、デイケア、指定居宅介護支援事業所、高齢者住宅等）
- 2 「急性期医療」：上山地区の急性期・亜急性期医療の中核病院
- 3 整形外科（関節・脊椎・手）の診療
- 4 回復期リハビリテーション
- 5 療養型病棟

<9つの主な事業>

- ① がん対策  
→検診、ターミナルケア
- ② 脳卒中对策  
→内科的治療、回診リハ
- ③ 急性心筋梗塞  
→山形市内の救急病院に搬送
- ④ 糖尿病対策  
→対応している
- ⑤ 小児救急を含む小児医療対策（小児科医0人）  
→対応していない。
- ⑥ 周産期医療  
→対応していない。
- ⑦ 救急医療  
→プライマリケアを担当、重症の場合は救急隊が搬送先を判断して、公立置賜総合病院、山形市内の救急病院へ。
- ⑧ 災害医療対策  
→救急班として対応
- ⑨ へき地医療対策  
→往診先として山間部に往診

## ＜現状と課題＞

- ・ 日本医療機能評価機構の審査を先週受けたばかりである。
- ・ ここ上山地区は市民病院がない。山形大学整形外科の膨張期に、その補完的役割を当院が担った。そのため、うちは上山市民病院的色彩が濃い。
- ・ 地域の高齢者のトータルケアについて担っている。
- ・ ここは、「急性期・亜急性期を担う病院」と位置付けている。また、包括医療を目指し回復期リハ病棟と療養型病棟をあわせて持っている。
- ・ 整形外科領域では、村山地域だけでなく、置賜地域の一部のニーズにも応えている。また、リハビリは山形市内の一部のエリアも担っている。
- ・ 内科は、高齢者の慢性期疾患の急性期を診ている。
- ・ 山形大で急性期医療が終わった後の後方病院としての役割を果たしている。

## ＜9つの事業＞

## ○ がん

- ・ 診断をつけるまではここでやっている。
- ・ ターミナルの一部を担っている。また、簡単な健診はやっている。

## ○ 脳卒中

- ・ 高齢者の発症から、循環器病の一環として最初から診る。
- ・ 脳神経外科の手術が必要なケースは送る。
- ・ 回復期リハはここでやっている。
- ・ 当院の旗の一つは、「脳卒中の回復期リハ」。
- ・ 医師は、整形外科7人（実質6人）、内科4人。
- ・ PT15人、OT12人、ST3人、計30人を擁する。山形医療技術専門学校卒が多い。
- ・ スタッフの補充は割りとスムーズにしている。全国公募した時期もあったが、今はこのブランド力により、集まってくる。
- ・ うちの強みはリハビリ。ただし、リハビリ専門医はいない。県内でも2～3人しかいないはず。最近温泉が出たので、これから活用する予定である。

## ○ 急性心筋梗塞

- ・ 診断がついたら送る。

## ○ 糖尿病

- ・ 山形大のT教授にも来てもらっている。
- ・ 合併症は送る。壊疽による切断などはここで行っている。
- ・ 標準医師数は100%をクリアしている。

## ○ 小児医療

- ・ 対応していない。

## ○ 周産期医療

- ・ 対応していない。

## ○ 救急医療

- ・ 二次救急を担当している。
- ・ 救急では高齢者が多い。また、メディカルコントロールの協力病院となっている。
- ・ 平日は、平均救急車1台。救急患者は約10人。土日も同じくらい。
- ・ 一人当直体制で、他はオンコールで対応している。

- 災害医療
    - ・マニュアルを作成したところ。
  - へき地医療
    - ・特に認識はしていない。
- .....
- 福祉分野について
    - ・老人保健施設（100人定員）を併設している。また、みゆき福祉会が特別養護老人ホームを運営している。老人保健施設は河北町にもある。
    - ・訪問看護ステーションを有し、専属は看護師5人。病院のPT、OTと一緒に出かけで行き訪問リハビリテーションも徐々に増えてきている。
    - ・市内に通所介護（みゆき会）がある。
    - ・指定居宅介護支援事業所「ケアサポート蔵王」を有する。
  - 前方・後方連携について
    - ・前方連携：整形外科では、上山市、山形市南部、白鷹町、長井市、たまに米沢市の診療所からの紹介がある。また、公的病院からはリハビリの依頼が多い。内科では、上山市の開業医からの紹介が多い。他に、山形大からの紹介もある。
    - ・後方連携について：緊急の場合は、山形大や山形市立病院済生館へ送る。また、老人保健施設、特別養護老人ホーム（その前に回復期病棟を経て）へ入所するケースも多くなってきている。
    - ・紹介率は21%。逆紹介は12%くらい。
    - ・在宅になかなか帰れない理由は？  
⇒ 家庭の介護能力の問題が大きい。
    - ・民間高齢者住宅「ケアハイム」を3~4年前からみゆき会グループ（有限会社）で運営している。市内3ヶ所で計47室で定員約70名。ケアハイムにはヘルパーが常勤している。
  - 在宅療養支援診療所について
    - ・ここは手を上げてはいない。また、開業医の先生から今のところ話をもちかけられてはいない。
    - ・山形大の近くのS先生の診療所がサテライト診療所となっている。今年の4月からこの診療所になってもらった。山形市に拠点を作ったので、そこでデイサービスもやっている。
  - 困っていること
    - ・急性期病院として継続していくのが容易ではない。
    - ・急性期医療をどう生かしていくのかがうちのポイントだと考えている。大病院よりは機能的にやれる強みもある。慢性期だけでは活性化が図られないが、民間病院はそういう面では自由にやれる。
  - 手術
    - ・50数例/月。全身麻酔250件/年。山形大救急部から2回/週来てもらっている。
    - ・手術では、大腿骨頸部骨折が多い。
  - 地域連携パス
    - ・山形市立病院済生館と連携パスを作成中である。
    - ・県立河北病院から連携パスに関するアンケートがあり、「一緒にやりましょう」と回答したばかり。

- 整形外科について
  - ・ 関節、背椎（ヘルニア、狭窄症など）、手ーについては専門医資格を持っている。
  - ・ 関節は山形済生病院、手は山形大、背椎は済生館が得意領域である。
- 療養病床について
  - ・ 医療型療養病床を有する。医療区分Ⅰが全体の3~4割を占めている。今は、もう一つ回復期リハ病棟に転換できないかと考えている。
  - ・ 4病棟の内訳は、急性期（整形47床、内科48床）、回復期（42床）、療養（46床）合計183床。
- 看護師の状況
  - ・ 不足状態である。現在の看護職は看護師がほとんどである。
- △3.16%の診療報酬改定の影響
  - ・ 今のところ、あまり目減りはしていない。
  - ・ 食費は200万円くらいの減
- 平均在院日数
  - ・ 一般病棟19~20日、回復期病棟70~80日、療養病棟150日
- 病床利用率
  - ・ 一般病棟90数%、療養・回復期病棟も入院患者が多い。
- 地域医療連携室
  - ・ 専任ではないがMSW3人、看護師5人、医事課1人、リハ科1人、医師2人。
- 往診
  - ・ 一人の医師（理事長：老人保健施設の施設長）が往診している。（週3~4日）
- DPC
  - ・ 興味はあるが、とれるかどうかを勉強中
- 電子化
  - ・ 電子カルテはまだ計画はない。
- アウトソーシング
  - ・ 給食（シダックス）。管理栄養士は職員。他に清掃業務など
- 薬剤師
  - ・ 現在4人。もっと服薬指導をさせたい。院外処方がほとんどである。
- 外来患者数
  - ・ 一日平均220人
- チーム医療
  - ・ NSTはまだこれからで、準備中の段階である。
  - ・ ICT、褥瘡チームはある。

○その他

- ・ 回復病棟は、1/3 が院内の一般病棟から、2/3（脳神経外科）が院外からの紹介による入院である。
- ・ 療養病棟は、それぞれ院内からの移動と院外からの紹介が半々
- ・ ヘリカルCT（1台）。MRIは、0.3Tから1.5Tに更新予定（GE）

<ソーシャルワーカー 赤城氏より>

- ・ MSWは、グループとして、みゆき会病院3人、老人保健施設「みゆきの丘」3人、「紅寿の里」（河北町）2人
- ・ 地域医療連携室は、副院長1人、MSW3人、医事1人、看護師5人、リハ科1人、他医師1人の計12人で、外来予約、転院依頼などを行っている。
- ・ 転院後の相談はMSWが受けている。介護の相談が最も多い。
- ・ 市福祉事務所、ケアマネージャーとの関わりもよくある。
- ・ 訪問リハについては、PT、OT各1名でほぼ毎日出かけている。
- ・ MSW間の勉強会をやっている。

○困っていること

- ① 介護力の低下や制度改定に伴い、相談援助の件数も増えてきた。今は3人でやっている。
- ② 療養病床の運営
  - ・ 医療区分による点数に差が出たので、患者層として医療区分Ⅱ、Ⅲでないと経営が厳しい。
  - ・ 入院相談では、いつ入院できるか、回復期対象かどうかなどの相談が多い。
  - ・ ベッドコントロールについては、急性期は外来看護チームが調整している。慢性期は、地域医療室とチームの調整により運用している。
  - ・ 大腿骨頸部骨折の患者について、「退院後の行き先は医師が調整などをしなくていいので助かる」とのよそから来た医師の評価である。
  - ・ 療養病棟は入院希望者が多く、待っていただくことも多い。

<民間高齢者住宅 ケアハイム>

- ・ 有限会社（みゆき会グループ）がバリアフリー（2階建てにエレベーター付き）の高齢者用アパートを運営
- ・ ケアハイムは上山市内に3箇所があり、総定員は約50人

【井出眼科医院】 山形市香澄町三丁目6番13号

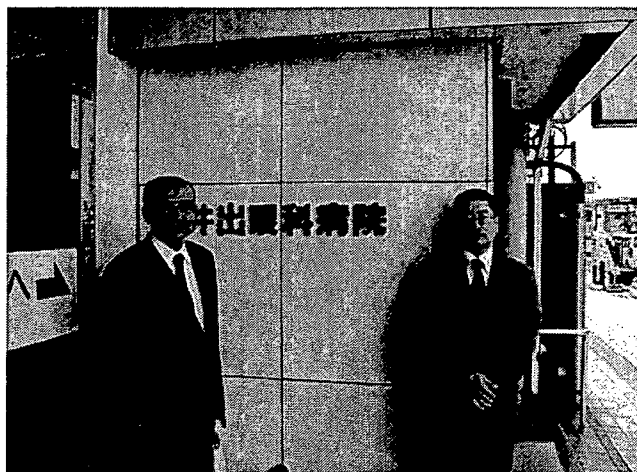
■訪問日：平成18年8月24日（木）10：00～12：20

■対面者：井出醇院長

■訪問者：（山形大学）清水博教授、船田孝夫助教授  
（山形県健康福祉課）武田祐二主事

項 目		項 目 (H18.10.1 現在)		併設施設がある場合、頭に○印				
病床数(現在)	26床	常勤医師	3人	訪問看護ステーション				
一日平均外来患者数	本院127.2人分院86.3人	非常勤医師(常勤換算で)	1.3人	訪問リハビリステーション				
病床利用率(※平成17年度)	87%	標準医師数%	143%	地域包括支援センター				
平均在院日数(※)	13日	産科医(再掲:常勤換算で)	人	介護療養型医療施設				
紹介率(※)	%	小児科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人保健施設				
逆紹介率(※)	%	麻酔科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人福祉施設				
救急患者数(平日)(※)	20人/年	歯科医師	人	認知症高齢者グループホーム				
救急患者数(休日)(※)	10人/年	薬剤師	1人	特定施設入居者生活施設				
救急患者数(救急車搬送)(※)	人/年	看護師	21人	軽費老人ホーム(ケアハウス)				
手術件数(全麻)(※)	約1,900件/年	助産師(兼任を含む)	人	有料老人ホーム				
手術件数(局麻)(※)	件/年	診療放射線技師	人	小規模多機能型施設				
分娩数(※)(うち帝王切開)	件/年( )	臨床検査技師	2人	高齢者向け優良賃貸住宅				
収支(平成17年度決算)	黒字 赤字	理学療法士:PT	人	看護学校				
△3.16%改定の影響	あり・なし	作業療法士:OT	人	リハビリテーション病院				
△3.16%の影響ありの場合	%	言語聴覚士:ST	人	診療所				
クリティカルパスの使用	あり なし	臨床工学技士	人	保育所				
医療ソーシャルワーカー:MSW	人	診療情報管理士	人	その他( )				
事務職	5.0人	栄養士(1.0)人、このうち再掲 管理栄養士( )人						
地域連携室(再掲)		看護師		人				
医師(兼任を含む)		人	医療ソーシャルワーカー(兼任を含む):MSW		人			
事務職(兼任を含む)		人	その他( )		人			
主な設備等	電子カルテ	導入済・検討中・予定なし	オーダーリング	導入済・検討中・予定なし				
CT	台	内訳: マルチスライス( 台)、ヘリカルCT( 台)、その他( 台)						
MRI	台	内訳: 1.5T以上( 台)、1.0T( 台)、0.5T( 台)、0.4以下( 台)						
リニアック	台	透析機器	台	透析実患者数	人			
重要度別必要医師数及び医療スタッフ数 A,B,C欄に内訳を記載 A:直ちに補充が必要 B:できるだけ早期に必要 C:将来的に必要								
	必要人数計	A	B	C	必要人数計	A	B	C
内科医(一般)	人	人	人	人	耳鼻咽喉科医	人	人	人
循環器呼吸器内科医	人	人	人	人	眼科医	人	人	人
消化器内科医	人	人	人	人	産婦人科医	人	人	人
小児科医	人	人	人	人	麻酔科医	人	人	人
外科医(一般)	人	人	人	人	放射線科医	人	人	人
循環器呼吸器外科医	人	人	人	人	その他( 科医)	人	人	人
消化器外科医	人	人	人	人	看護師	人	人	人
脳神経外科医	人	人	人	人	コメディカル			
整形外科医	人	人	人	人	( )	人	人	人





<課題>

- 1 眼科関連の後方連携の充実

<Flag>

- 1 眼科専門病院
- 2 白内障を主とする眼科手術のほか、眼形成、眼瞼下垂。DCRは当院が最多と思われる。
- 3 応援診療・学校保健（特に最上地区・新庄市等）

<9つの主な事業>

- ① がん対策  
→行っていない。
- ② 脳卒中对策  
→行っていない。
- ③ 急性心筋梗塞  
→行っていない。
- ④ 糖尿病対策（眼科に限る。）  
→行っている。眼底関係（網膜剥離・網膜症の難度の高い症例）は山形大、山形市立病院済生館、山形済生病院へ紹介。そのほかは当院でも行っている。
- ⑤ 小児救急を含む小児医療対策（小児科医0人）  
→行っていない。
- ⑥ 周産期医療  
→行っていない。
- ⑦ 救急医療  
→行っていない。
- ⑧ 災害医療対策  
→行っていない。
- ⑨ へき地医療対策  
→行っていない。

## ＜現状と課題＞

- ・ 村山地区に眼科医が集中しすぎている。しかも山形県全域で眼科開業が増えている。もう少し（各県、例えば秋田県に眼科医が）ばらけてくれたらと思う。内科、歯科も一部過密状態にある。
- ・ 何故山形市での開業医が多いのかということに対しては、へき地で開業したがない理由の逆のことだと思う。医師の配置については、面積当たりのことも考えなければならない。新庄市に当院分院（クリニック）を持っているが、新庄地区に眼科施設は3つだけ。人口当たりや面積当たりの医師数を比較するとまた違った側面がみられる。
- ・ 山形県と秋田県などは県単位で評価して良いと思う。ただし、東京の近郊はそうではなく、生活圏でみるべき。東京では手術がすぐ受けられるので、近県の患者は東京の施設に手術の時は行ってしまふ。本県では、子弟の教育環境などの理由から山形市に集中するのではないか？
- ・ 山形県の人口 123 万人、山形市の人口 23 万人でさほど県都に集中していない。宮城県は仙台にかなり人口が集中している。例えば石川県、熊本県なども人口の半数は県都に集中している。山形県の場合は米沢市から新庄市まで南北に4～5万の都市がずっと並んでおり、そこそこに眼科医が点在している。
- ・ 当院で入院手術の患者は白内障の手術の患者がほとんどである。重症の糖尿病性網膜症の患者は他の内科で診てもらっており、たいてい内科・眼科のある併設病院で診てもらっている。そのため重症の糖尿病の患者はほとんどいない。かつて九州都城で眼科病院が糖尿病の患者まで抱え込もうとしたら、それまでの内科との連携関係がこじれたことがあるそう。
- ・ 卒業生が眼科医を希望しすぎる傾向がある。かつて整形、その後皮膚科入局者が多かった時期があった。どうも学生は短絡的に決めたがるようだ。一人前になるのに10年かかるのでその頃希望した診療科がどうなっているのかわからないことを考えようとしな。
- ・ 女医については育児の問題が多いと思う。
- ・ 現在の医師不足は、臨床研修医制度のスーパーローテーション後の研修医の動向が大きいようだ。
- ・ 研修卒業生は旧帝大に偏在しているという。

## ＜9つの主な事業＞

## ○へき地医療

- ・ 新庄地区では当院分院と W 先生と山形県立新庄病院が眼科医療を担っている。
- ・ 学校保健は開業医（井出眼科と W 先生）、救急・夜間は県立新庄病院が受け持つという従来からの役割分担がある。
- ・ 最上町に出かけて学校保健に関っている。
- ・ 最上町町立病院に山形大眼科より週2回？応援に行っているのではないか。

.....  
〈その他〉

## ○白内障

- ・ 当院で対応できない場合はない。（全麻を除く）

## ○医師の状況

- ・ 現在5人体制

## ○前方連携

- ・ 白内障手術、角膜移植手術、その他眼科一般の手術の依頼、眼の形成の手術、眼瞼下垂、DCRなどの疾患

- 後方連携
  - ・ 眼底疾患（重度の網膜剥離・網膜症など）は山形大へ紹介している。
  - ・ 済生館にも検査紹介を行っている。（院長が済生館出身ということもある）また、済生館の登録医になっている。
  - ・ 山形市内を中心に自宅に往診を行っている。寝たきりの方などの診察に出かける。毎週金曜日午後2～3件
  - ・ 紹介件数は、手術の依頼約30件／月
  - ・ 外来約130人／日、別に分院が約90人／日
  - ・ 病床利用率は、26床に対し平均23人の入院患者がいる。
  - ・ 平均在院日数は10日前後。片眼だと1週間位（白内障術後は両眼同時にはやらない。1～5日ずらす）
- 電子カルテ
  - ・ 図を描いての説明が多いので眼科はなじまない。
- 遠隔医療
  - ・ 遠隔医療はやっていないが、新庄ー山形に隔日バスが出ている。（入退院患者、検査患者を新庄に送ったりしている）
- 標準医師数
  - ・ 標準医師数は3人なのでクリアしている。
- 県内の眼科医療体制について
  - ・ 山形大・済生館・県立中央病院は眼科の中核である。
  - ・ 市内・県内の病院は山形大の関連病院が多く、山形大（Y教授）を中心にネットワークができていよう。また現在開業している先生は山形大出身が多いこともネットワーク構築に寄与している。
  - ・ 最上町立病院にも山形大から応援診療を行っているのではないかと？置賜地域も山形大が主。米沢市立は福島医大の眼科医。米沢の患者は山形には来ず、福島に行く傾向がある。三友堂病院の医師は東京（昭和医大？）から来ている。
  - ・ 「白内障手術だけを覚えて開業しよう」というのが今の若い医師の考え方のようだ。
- 医療スタッフ
  - ・ 看護師21人（うち准看7人）、ORT（視能訓練士）本院分院で2人ずつ、メディカルアシスタント4人、技師1人、放射線技師はいない（済生館、篠田病院に依頼）、薬剤師1人、栄養士1人、看護助手2人、事務5人
  - ・ 給食は外注
- △3.16%の診療報酬改定の影響
  - ・ 当院は8/31を会計年度末としている。
  - ・ 患者の動向では、冬になる寒くなると患者が減る。平成16年度は赤字だったが、平成17年度は黒字である。
  - ・ 4～8月でマイナスにはなっていない。
  - ・ 今回改定されたコンタクトレンズ再診料は以前からもらっていなかった。コンタクトレンズの利ざやは元々小さいのでさらに利潤が減った。

○ その他

- ・ コンタクト会社（社長他社員 5 人、院長の奥様が所有）に地代を払っている。
- ・ 院外処方としている萬屋薬局が近くにある。
- ・ ハイヤーで往復通院に来る人がいる一方、往診に行くと老夫婦 2 人だけのところも少なくない。
- ・ 入院患者のうち半分が最上地区居住者、関係者である。
- ・ 医学生 100 人のうち 10 人が眼科医を希望するのは異常な状態だ。米国のように他科を経験してきた者だけが眼科に進めるようにできないものかと思う。